

ホーム名：グループホーム はーとふる東住吉 1Fユニット					
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員がご利用者の思いを大切にしながら自分らしく過ごして頂けるように心がけ、理念を共有して毎日の業務に取り組むことができている。	今年3月に事業主体が株式会社アイシストになり、それを機に職員で意見を出し合い新たに「理念」を作り直した。	利用者一人ひとりの想いを汲み取り、寄り添う気持ちを施設長、管理者を中心に職員全員が共有して支援に生かしている。今後も温かい支援を期待している。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2週間に1度のふれあい喫茶や地域の催しへの参加や定期的な運営推進会議の機会を通じて地域とのつながりを持っている。	自治会に加入していて回覧板等で地域の行事の連絡があり、事業所からも”納涼祭”等の案内を掲示している。近くの保育園の園児との交流や短大の介護実習生の受け入れもしている。	認知症の人やその家族を地域で支える事が出来るように、事業所が中心になり認知症の知識を活かして広めていきたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前に1度、地域住民を招いて当事業所における認知症サポーター養成講座を開催した。今後も機会をつくり、開催を予定しており、キャラバンメイト養成講座も1名が修了している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議においてサービスの実施状況や取り組み内容等の報告や、構成員との意見交換を通じてその内容をサービスに活かすことができている。	毎回地域包括支援センターと社会福祉協議会、地域住民の出席を得て隔月に開催している。家族の出席はほとんどなく、最近開催の案内はしていない。	活発な意見交換、情報交換がなされて事業所の活動内容も外部に発信できているので、ご家族の参加案内も続けていきたい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	不明な事柄や困難事例等あれば市区担当者へ相談し、助言や協力を得られている。	東住吉区主催の小規模多機能、グループホーム連絡会が3ヶ月に一度行われ、参加して情報交換しているが区役所からの参加は見られない。介護保険等についての相談では協力を得られているが運営推進会議への参加はない。	今後も市区担当者との連絡を密にし相談したり運営推進会議録を送付するなどしてその関係を築かれない。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	施設の方針として身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。抑制や施錠等の拘束行為は一切行っていない。	玄関に「身体拘束排除宣言」が掲げられている。施設長から全職員に拘束についての説明を丁寧に行い家族にも理解を得て、人の力で見守るようにしている。	やむを得ず離床センサーを使用している入居者が2名おられるが、ほぼ拘束の無い状態といえる。安全性を重視するあまり入居者が思い通りに動けない状態になってしまう事がないように、常に本人目線で本人中心に考え支援している。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修を通じて高齢者虐待についての理解を深め、職員は虐待防止に関する理解ができている。日々の業務においても虐待を防止できるよう努めている。		

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>ご利用者それぞれの状況を把握し、必要に応じて成年後見制度や日常生活自立支援事業についての説明や利用の検討をしている。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時にご利用者、ご家族へ重要事項を説明し、同意を得たうえで契約を締結している。</p>		
10	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご利用者の意見や要望を随時受け入れ、運営に反映できるように努めている。ご家族とも定期的に連絡をとり合い、意見や要望を聞く機会がある。苦情等の窓口機関の案内も玄関に掲示している。</p>	<p>家族に月に一度「月間報告書」を送付している。その内容は行事報告、個人個人の様子がよくわかるような詳しい説明と、その時の写真が貼り付けてあり家族にはとても嬉しいものと思われる。意見箱は設置していたが意見が入ることがなく今は置いていない。</p>	<p>入居者や家族からの思いは口頭でしっかり伝えられているようである。意見が入ることはなくとも意見箱の設置自体が事業所への信頼につながるので再考される事を希望する。</p>
11	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>定期的な職員会議により職員からの意見や提案を出せる場を設けている。また、それらを業務に反映させることができている。</p>	<p>月に一度のスタッフ会議で、各入居者の介護についてや全体の支援に関する提案が活発にされている。施設長のフォローもあり素晴らしい提案が実行される事も少なくない。</p>	<p>施設長や管理者の声かけ、気配りが後押ししているのか、毎日の業務に対して職員が積極的に関わっているのはとても良い事と思われる。</p>
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員が働きやすく、意欲をもって業務に取り組めるような職場環境を目指し、代表者を中心に処遇改善等の職場環境の整備に努めている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>定期的なカンファレンスや申し送りの機会に、管理者、計画作成担当者、介護スタッフが一丸となってケアの方法等を考えている。また職員は順次、認知症介護実践者研修の受講をすすめている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>主に施設長が東住吉区グループホーム・小規模多機能連絡会に参加している。職員も施設見学会や交流会等により定期的に他事業所との情報交換や交流の機会をもつ事ができている。</p>		

## II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前の面談やアセスメント、前担当者からの情報提供によりご利用者の意向や状況を確認し、良いケアに活かせるように努めている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前の面談等によりご家族の意向も十分に把握し、要望等に耳を傾けご家族との信頼関係も築く事ができるよう努めている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>計画作成者によるアセスメントを中心にご利用者がグループホームでの生活を穏やかに送るために必要な援助を見極め、十分に必要なサービスを提供できるように努めている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>ご利用者と職員が共に支え合い、協力して日常生活を送ることを目指し、毎日の家事や作業などを共同で実施していく事とともに信頼関係を築いていけるよう努めている。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>日常生活状況を「ご利用状況報告書」という形で毎月1度ご家族へ送付し、情報の共有を図っている。そのうえで新たな課題に対しご家族の意見や協力も得ながらご利用者へのケアを共に検討している。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>ご利用者の生活歴や嗜好等を把握し、馴染みの場所や人との関係を活かしたケアを実践できるように努めている。</p>	<p>日常の散歩以外に個人的に行きたい場所を聞き出し同行している。お気に入りの喫茶店や甲子園球場、海を見に行くこともある。新しい人との出会いとして散歩時や買物の折の挨拶も大事にしている。</p>	<p>これからも、フェースシートや日々の支援の中でそれぞれの入居者の希望を知り、共有して支援に結びつけていってもらいたい。</p>
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>ご利用者同士の関係を把握でき、職員と一緒に関わりながらご利用者同士の交流も援助している。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>契約終了後のご利用者やご家族からの相談にも対応し、可能な限りの対応をしている。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントや日々の関わりの中でご利用者の課題や意向等の把握に努め、ご本人を中心としたケアを検討し実践している。	コミュニケーションを大事にして耳を傾け情報を集める事が心がけ、「フェイスシート」「アセスメントシート」により生活歴や要望や趣味を職員で共有している。	職員の考えで、入居者が笑顔になる事を集めて、それを皆で共有する「笑顔ノート」を作ったり、その時々で工夫しながら出来るだけ耳を傾け楽しめる事を知ろうと努力している。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	ご家族や前担当者からの情報収集により、これまでの生活歴やサービス利用の状況等を把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者の自立した生活を継続できるように自立支援の視点をもってケアを実施している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者、ご家族、関係者との話し合いの機会をつくり、情報交換をしながらそれぞれの意見やアイデアをサービス計画に反映させている。	入居時には3ヶ月計画をたて、その後は6ヶ月ごとに本人、家族、医師、看護師、介護職員の意見も入れ見直しをしている。入居者にわかりやすく身近な目標を設定し前向きな気持ちになるよう支援している。	これからも一人ひとりの様子を見守り介護計画に添って支援されていくよう期待している。入居者の事を尊重して、入居者に合わせた支援をこれからも期待する。
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間での情報の共有が円滑にできるように記録を整備している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者それぞれの生活スタイルに合わせて柔軟にサービス提供できるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の催し等へも参加しながら地域との触れ合いの機会をもち、地域の中での暮らしを楽しむ事ができるように努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診時の付き添いや通院時の同行介助により、医療機関とも密に連携をとる事ができており、ご利用者は適切な医療を受ける事ができている。	2週間に1度提携医院から往診があり歯科医は毎週、精神科医の往診もある。かかりつけ医へは同行し家族と共に受診に付き添っている。	今後共一人ひとりに合った適切な医療支援を行ってほしい。

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>看護師が定期的に健康状態の把握に努め、適切な助言や受診の指示、またはケアの内容を職員と共に検討することでご利用者は必要な医療を受ける事ができている。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時には病院への情報提供を実施し、情報交換や相談等の連携も行いながら退院時の調整等も実施できている。</p>		
33	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化や終末期に関する指針を策定し、ご利用者、ご家族へ説明している。また、ご利用者、ご家族の意向を尊重し、事業所として可能な限りの支援をできるように各関係者との連携をとりながら適切な援助を実施できるように努めている。</p>	<p>終の棲家と思ってもらえるよう取り組み、指針を作成している。事業所でできることを提示し本人や家族が納得できるように相談の上、その都度決めるようにしている。</p>	<p>本人や家族の意向を大切に職員、関係者が話し合いを重ねられ看取りに関する理解を深めていかれる事を期待している。</p>
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時等に関するマニュアルを整備し、事故発生時等に備えている。また、各ご利用者の緊急連絡先を確保し、緊急時の連絡体制を整備している。</p>		
35	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>災害時等の対応に関するマニュアルを整備し、災害時等に備えている。また、年2回の消防訓練においても避難誘導の方法を検討している。</p>	<p>年2回消防訓練を行っている。直近では7月に夜間、介護者が少人数の出火を想定した訓練を行い課題、問題点を見直している。備蓄食料品は2日分用意している。</p>	<p>地震、水害等はいつどのような形で起こるかも分からないので消防、区役所、地域住民との連携を図っていきたい。</p>

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>ご利用者の人格を尊重し、プライバシーやプライドを損ねないように配慮して関わりを持っている。入浴時等は可能な限り同性介助で対応するようにしている。</p>	<p>入居者が自由でいられるような支援を心がけている。一人ひとりを大切にし、その気持ちに寄り添っているので入居者は安らかな中、意欲的に感じられた。</p>	<p>介護施設の当たり前を押し付けるのではなく入居者にとっての当たり前を目指す、このような志の高い支援を今後も継続されたい。</p>
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>ご利用者が自己決定できるように必要な援助を行い、ご本人の意向や思いを尊重した支援を心がけている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>施設の方針として、ご利用者には介護施設の当たり前を押し付けるのではなく、ご本人にとっての当り前の生活を送れるように心がけている。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>身だしなみを整え、自分らしい身なりで過ごして頂けるように必要な援助を行っている。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>ご利用者と職員が協力して食事の準備や片付けを行っている。週に1~2度ご利用者の嗜好に合わせてメニューを変更し、美味しい物を食べながら食事の時間を楽しめるよう心がけている。</p>	<p>2週間前に業者から届くメニューをこちらの要望の食事に差し替える事が出来る。例えば数の子、手巻き寿司、すき焼き等。回転寿司に行く事も有り、また一人ひとりに合わせた誕生日にはケーキやプレゼントで祝う。</p>	<p>食べる楽しみはとても大きいもので自分の意見や要望が取り入れられるのも、入居者にとり嬉しいことである。</p>
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>栄養バランスの良い食事の提供ができています。水分摂取も随時促しながら脱水の予防にも努めている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後には口腔ケアを援助し、口腔状態の清潔を保てるように必要な援助を行っている。また、定期的に歯科医、歯科衛生士による口腔ケアも実施している。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>可能な限りトイレでの排泄ができるように排泄パターンの把握に努め、トイレ誘導等の必要な介助を実施している。</p>	<p>排泄チェック表をつけ、個別にトイレ誘導を行なう。同じ声掛けでも平気な人もいればストレスに感じる人もいるとのこと、それぞれに合った介助を心がけている。</p>	<p>介護度が上がるにつれ介助法の検討を重ねられ、適切な支援、大らかな対応を望む。</p>
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>身体を動かす機会を多くつくり、水分摂取の促しをすることで便秘を予防できるように努めている。便秘時には医療機関の指示に基づいて対応している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>ご利用者の意向や健康状態に合わせて、一人ひとりが気持ちよく入浴できるように必要な援助を行っている。</p>	<p>機械は置かず10ヶ所以上に手摺が取り付けられていて、出来るだけ自力で入浴出来るよう支援している。入居者が希望すれば夕食後であっても対応する努力をしている。</p>	<p>入居者中心に考え自力で見守り可能な限りそれまでの生活習慣に合わせるように支援している。</p>

46	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>ご利用者は自分のペースで無理なく休息をとりながら日常生活を過ごす事ができている。</p>		
47	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>投薬内容を確認し、用法に基づいて服用できるように援助している。また、服薬による状態の変化等の有無を確認し、必要時には医師及びご家族に報告している。</p>		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>ご利用者それぞれに合った役割や過ごし方を検討し、サービス計画に反映させている。</p>		
49	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>毎日、散歩やドライブなどの外出の機会を設け、ふれあい喫茶や地域の催しなどへも随時参加していく事で、ご利用者は活動的な生活を送ることができている。</p>	<p>一日の過ごし方は入居者が決めることに合わせ、散歩やドライブは毎日のように行っている。近くの川の堤防を歩いたりドライブで長居公園や、季節に合わせて桜やクリスマスイルミネーションを見に行き楽しんでもらっている。</p>	<p>個別の希望にも対応し天保山、甲子園の観戦、墓参りなどに同行することもある。外出は意欲を高める喜びであるのでこれからも支援の継続を希望する。</p>
50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご利用者それぞれのご家族と相談した上で必要な方はご自分で金銭の管理をしており、必要時には職員と一緒に買い物に出かけている。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>ご利用者の希望により電話を随時使用できるようにしている。</p>		
52	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有空間は生活感のある居心地の良い空間を作れるように努めている。</p>	<p>居間には入居者の写真を拡大して、張替え自由なビニールボードに貼ってあり、そこには溢れんばかりの入居者の笑顔があった。思い思いの言葉が書かれた習字の作品がとても楽しく、広いベランダからは貸し農園が見られた。</p>	<p>掃除が行き届き、明るく温かい空間である。手作りのカレンダーも楽しい。</p>
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになったり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ご利用者それぞれが過ごしやすく自分の居場所と感ぜられる環境づくりに努めている。</p>		
54	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室内はご利用者自身の使い慣れた家具や好みの物を置くなどして穏やかに過ごせるように配慮して居室環境を整えている。</p>	<p>入居者は居間や居室を行き来し自由に過ごしている。自作の手芸作品や人形をガラスケースにたくさん飾っている人、子供や孫の写真や亡くなったご主人の写真や仏壇を置いていたり各自居心地の良い部屋になっている。</p>	<p>各部屋の入口に写真、名前と、今年の抱負が貼ってあり、入居者がやりたい事を大切にしていると感ぜられる。</p>
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>安全で移動や活動のしやすい環境づくりができている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての利用者として ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない